

コロキウム2012提言

歯の喪失防止と健康増進

深井保健科学研究所

第11回コロキウム “開かれた社会” における口腔保健・健康増進の展開
(2012年7月15日, 東京, 日本)

口腔の健康は、全身の健康増進およびQOLの向上に不可欠な要素であり、その取り組みは、歯科医療関係者ばかりでなく、医療、健康、教育など関連する他職種との連携によってその効果および効率性は高まる。

その際、口腔の健康度のoutcomeとして、口腔機能にとどまらず、全身の健康への影響度で評価するための指標設定に関する研究を推進する必要がある。

このような観点から、以下の提言を行う。

1. 口腔の健康は、NCDs(non-communicable diseases)のリスク低減に寄与するという科学的根拠の蓄積、および口腔保健とNCDsの共通リスクへのアプローチの具体的取り組みを促進する。
2. 歯の喪失は、口腔機能の低下の直接的な原因にとどまらず、全身の健康増進を阻害する要因である。歯を保存する医療技術の進歩と共に、「歯の喪失 (tooth loss) または現在歯数 (tooth number)」を他分野の専門職および国民レベルで共有できる健康指標のひとつとなるための研究の促進を図る。
3. 歯の喪失の要因 (リスクファクター) を特定するための研究を推進する。すなわち、口腔保健関連要因 (口腔疾患, 咬合状態, 全身の健康, 加齢的变化等) およびの社会的決定要因 (social capital, 保健医療制度等) に関する科学的根拠の蓄積を図る。
4. 歯の喪失防止に関して、地域保健と歯科医療を一体的に提供する社会システムの追究を図る。そして、医療を含むより効果的な口腔保健提供体制を構築していくための働きかけを行う。

Policy Statement of Fukai Institute of Health Science

Prevention of Tooth Loss as a Health Promotion Factor

Perspectives on oral health and health promotion in the new open society

Adopted at the 11th Fukai Institute of Health Science (FIHS) Colloquium,

15 July 2012, Tokyo, Japan

Oral health is a primary factor in the promotion of general health and maintenance of personal quality of life. The effectiveness of oral health can be enhanced through cooperation between dental professionals and professionals in other fields such as medical care, health, and education.

Therefore, oral health outcomes will need to be assessed in terms of their impact not only on oral function, but also on systemic health. However, further studies are necessary to develop practical and meaningful assessment criteria.

With this in mind, we have decided upon the following policy goals for the coming year:

1. To accumulate further scientific evidence that improving oral health can help reduce the risk of non-communicable diseases (NCDs). And to put into practice the common risk factor approach concerning oral health and NCDs.
2. To promote research on the prevention of tooth loss, which directly causes oral dysfunction and is also known to be a risk factor in the deterioration of systemic health. Such research should not only develop and refine dental care techniques for the retention of functional teeth, but also confirm that the number of present teeth is a valuable and practical health indicator that can be easily assessed and employed by both health professionals and the general public.
3. To promote studies which clarify the risk factors of tooth loss. Such studies should seek to amass evidence in two areas: 1) oral health and general health related factors (oral diseases, occlusion status, systemic health, age-related changes, etc.), 2) social determinants (social capital, health care delivery system, etc.)
4. To integrate community health and dental care in order to achieve a more highly effective oral health care delivery system for the prevention of tooth loss. The ideal system will be based cooperation among healthcare professionals in all fields.

“開かれた社会”における口腔保健・健康増進の展開

Perspectives on oral health and health promotion in the new open society



■ 主催：深井保健科学研究所 ■ 日程：2012年7月15日（日）10時15分受付 11時15分開会
■ 会場：東京国際フォーラム ガラスホール棟6階 G602

■ プログラム

10:15 受付開始

11:15 開会

黙祷 重松逸造先生（深井保健科学研究所歯科疫学研究会顧問）2012年2月6日ご逝去
第11回コロキウム主旨説明 深井穫博（深井保健科学研究所）

11:30-12:45 ヘルサイエンス・ヘルスケア最新トピックス

座長：遠藤眞美（九州歯科大学）、星佳芳（北里大学）、高柳篤史（高柳歯科医院）

1. 深井穫博（深井保健科学研究所）：地域口腔保健の評価と指標を考える（宿題講演）
2. 岡本悦司（国立保健医療科学院）：既存データで因果関係はわかるか？—プロペンシティブスコア（傾向得点）法をめぐって
3. 山本龍生（神奈川歯科大学）：大規模コホート研究からみえてきた高齢者の歯数・義歯と転倒との関係
4. 野村義明（鶴見大学歯学部）：歯根膜の再生は可能か？PS細胞を利用したアプローチ
5. 財津 崇（宇宙航空研究開発機構（JAXA）、東京医科歯科大学）：宇宙歯学—究極の予防歯学としての発展へ向けて
6. 大山篤（神戸製鋼所 東京本社 健康管理センター）：診療参加型臨床実習に患者の協力は得られるのか？
7. 藤井由希（公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所）：歯科衛生士に必要なコミュニケーションスキルとは
8. 簗輪眞澄（元国立保健医療科学院疫学部部長）：日本の疫学における重松逸造先生の足跡

12:50-14:30 シンポジウムⅠ

「歯の喪失をどう防ぐか—リスクファクターへのアプローチ」

座長：吉野浩一（横浜銀行）、佐々木 健（北海道庁）

1. 話題提供
- (1) 花田信弘（鶴見大学歯学部）：カリエスフリー社会における歯の喪失リスクをどう考えるか
- (2) 深井穫博（深井保健科学研究所）：歯の喪失の自然史を考える
- (3) 吉野浩一（横浜銀行）：歯数は歯の喪失のリスクファクターの一つである
- (4) 相田 潤（東北大学）：歯の喪失防止における社会的決定要因へのアプローチ
2. 指定発言

鶴本明久（鶴見大学歯学部）：リスクファクターとリスクインディケーター

俣木志朗（東京医科歯科大学）：保健指導の観点から

3. 討議
4. まとめ

歯の喪失のリスクファクターとは何か、また、それにどのようにアプローチするか

14:30-15:00

名誉研究員称号授与式：高江洲義矩先生

深井保健科学研究所運営報告

休憩

15:00-16:45 シンポジウムⅡ

「国民皆保険達成50年：歯科医療・口腔保健の新たなチャレンジ」

座長：深井穫博（深井保健科学研究所）、白田千代子（東京医科歯科大学）

1. 話題提供

- (1) 安藤雄一（国立保健医療科学院）：日本の口腔保健50年 At-a-glance
- (2) 恒石美登里（日本歯科総合研究機構）：わが国の歯科医療費の50年間の推移
- (3) 瀧口 徹（新潟医療福祉大学）：保健と医療のベストミックスへのチャレンジ「歯科口腔保健法に基づく優先順位の高い施策研究班」の概要と意義
- (4) 上野尚雄（国立がん研究センター）、大田洋二郎（静岡県立静岡がんセンター）：NCDsと口腔保健—がん治療における医科歯科連携最前線
- (5) 神原正樹（大阪歯科大学）：なぜ日本人の口腔内は改善されたのか、これからのチャレンジは何か

2. 指定発言

池主憲夫（池主歯科医院）：日本の歯科公衆衛生の取り組みは何を語るのか

蒲池世史郎（ネパール歯科医療協会）：日本の歯科医療はどのようなものだったのか

3. 討議

4. まとめ

なぜ日本人の口腔内の健康状態は改善してきたのか、長寿社会におけるこれからのチャレンジ

16:50 コロキウム2012 提言 深井穫博（深井保健科学研究所）

Policy Statement of FHS Colloquium 2012 in Tokyo, Japan

17:00 閉会

17:30-19:30 懇親会（別会場）